

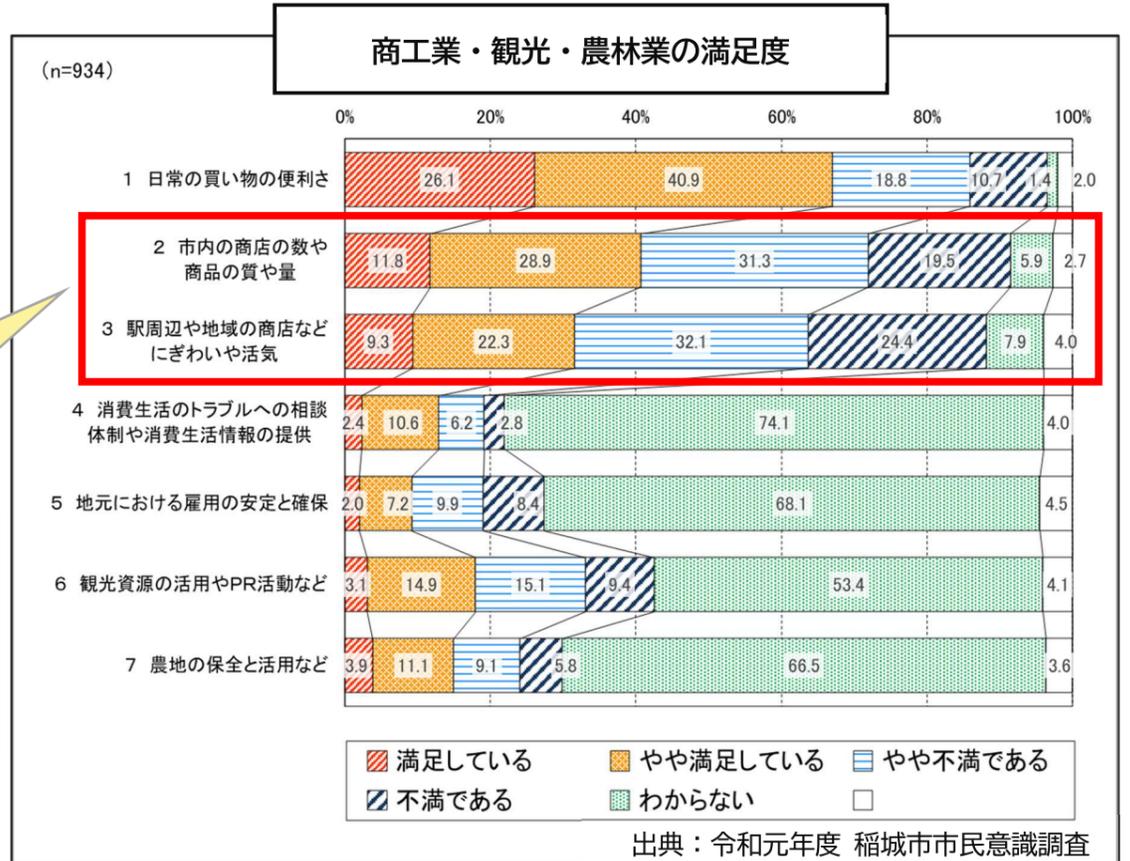
賑わいのある拠点づくり

課題（市民意識調査結果）

「市内の商店数や賑わい及び活気に関して不満を感じている」



「市内の商店の数や商品の質や量」と「駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気」では、“不満である”の回答割合は半数を超えていて、“満足している”の回答割合を上回っています。



※ “不満である” は「やや不満」と「不満」を合わせた回答割合
 ※ “満足している” は「やや満足」と「満足」を合わせた回答割合

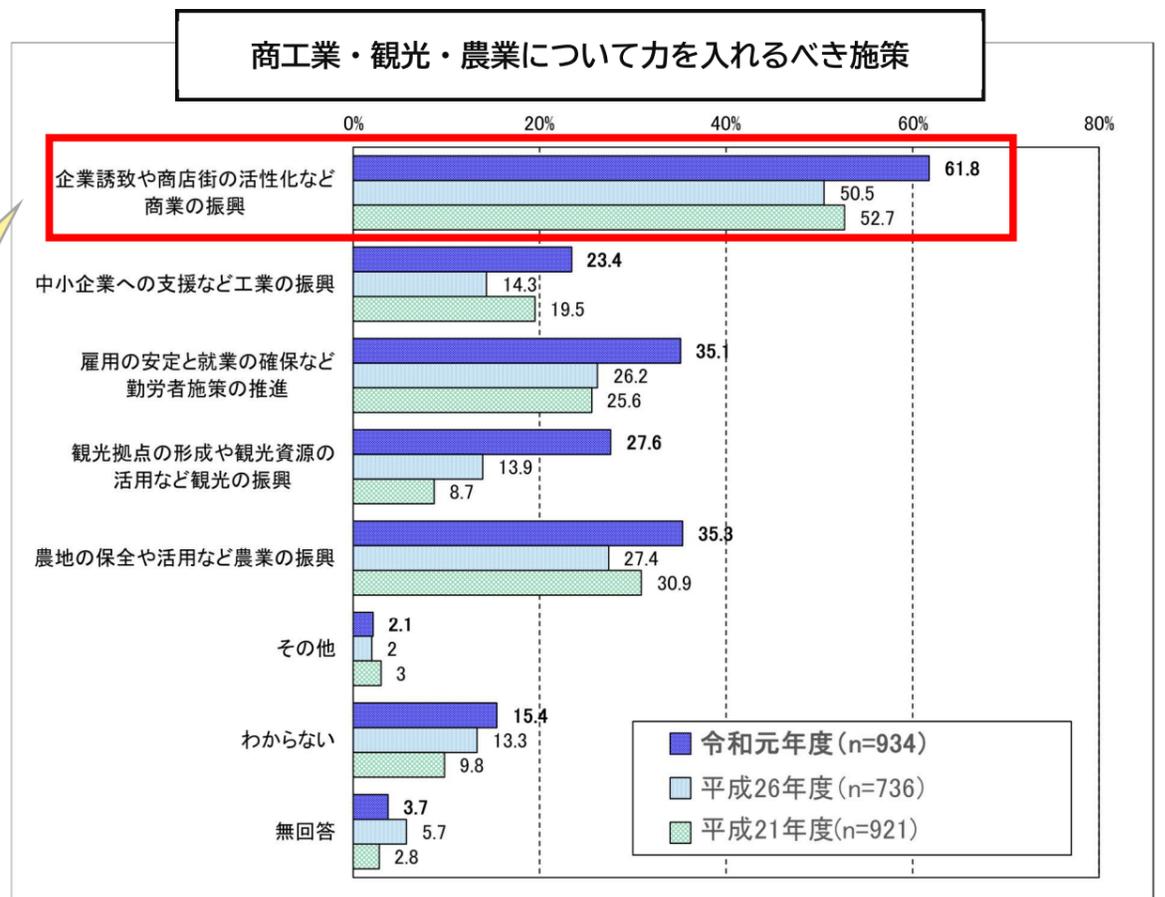
今後の方向性

「駅周辺や商店街等の各拠点の賑わいづくり」

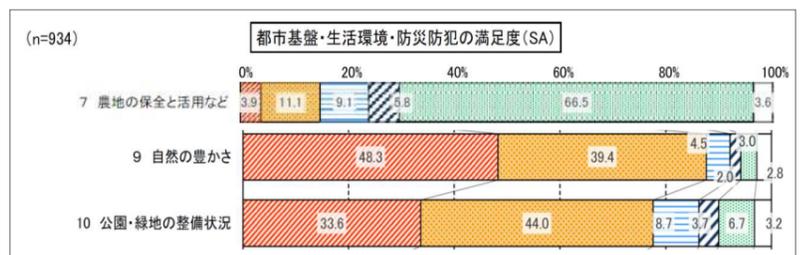
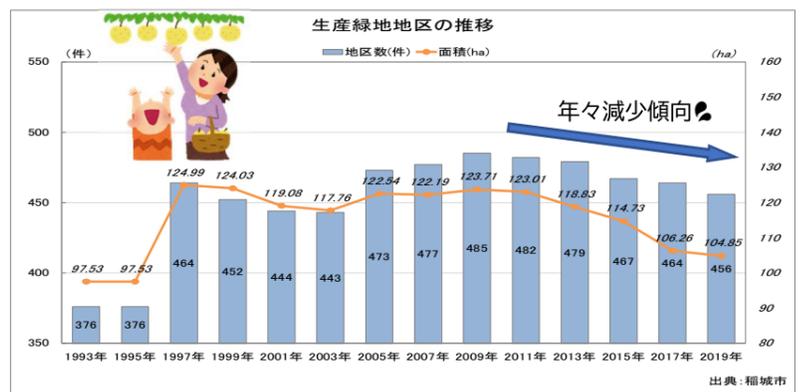
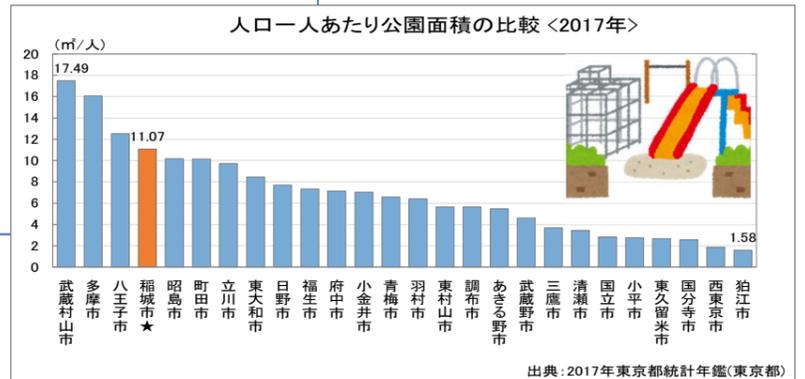
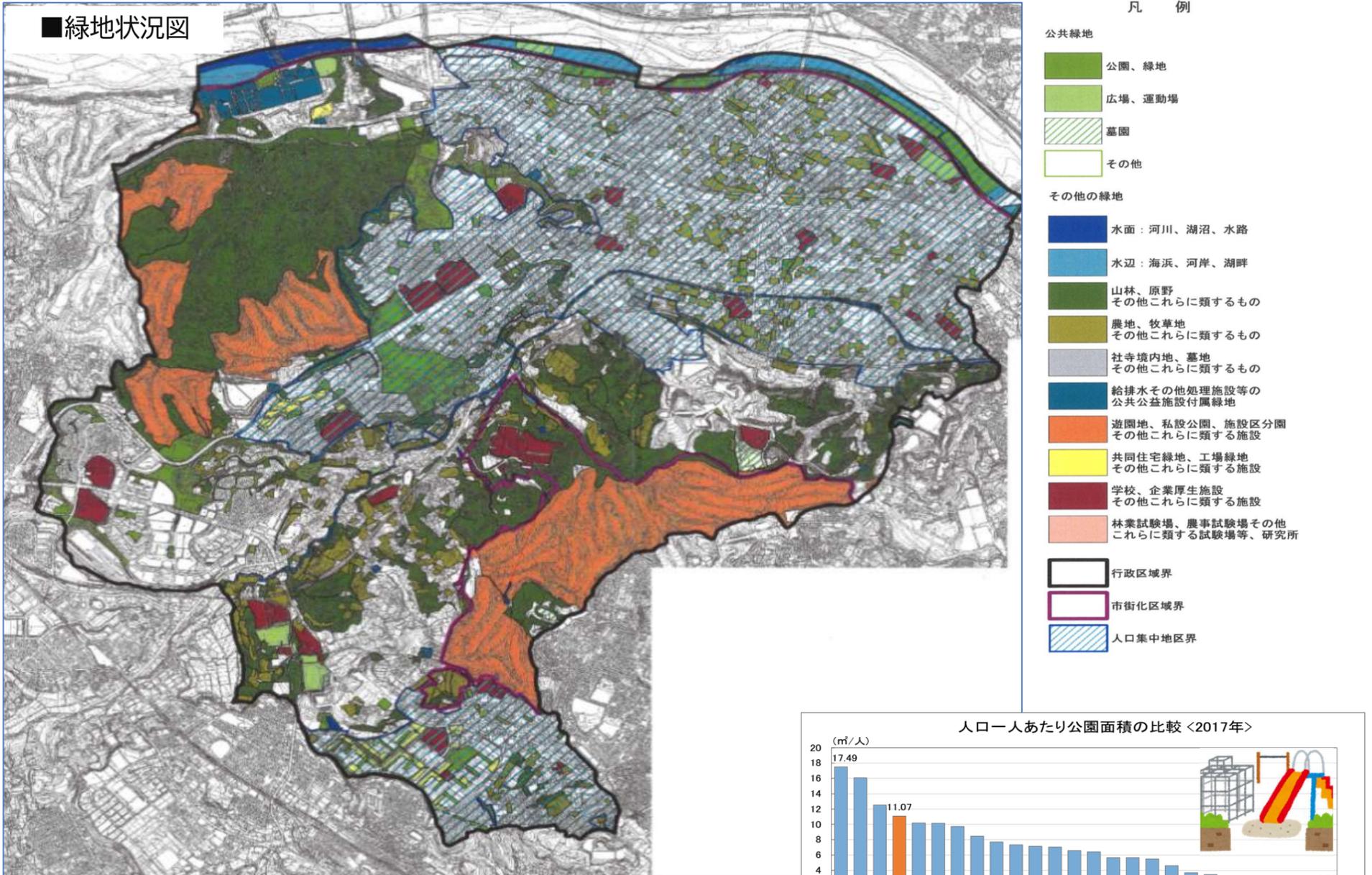
※各拠点は「将来都市構造」参照



「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が第一位になっています。経年変化を見ても、その割合は増加傾向にあります。



豊かな自然資源等の活用・環境との共生



現状・課題

○緑豊かな「緑の環」の形成

・広大な多摩川河川敷、多摩丘陵の連続した斜面緑地、多摩サービス補助施設、ゴルフ場等の丘陵地など

○公園面積の広さ

都市基盤整備により、26市と比較しても充実

○農地の減少

既成市街地の農地は、農業者の高齢化や後継者不足等により年々減少傾向

今後の方向性

○民有緑地の維持・保全・管理

○農地の保全、農と連携した利活用の検討

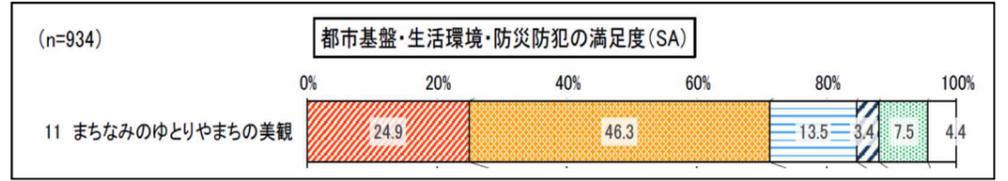
○「自然の豊かさ」「公園・緑地の整備状況」は市民の多くが満足しています。

○その他、住みたい理由として、「自然環境が良い(緑や用水・農地など)」が最も回答割合が高くなっています。

良好な景観形成

現状（市民意識調査結果）

「まちなみのゆとりや美観に
対する満足度は高い」



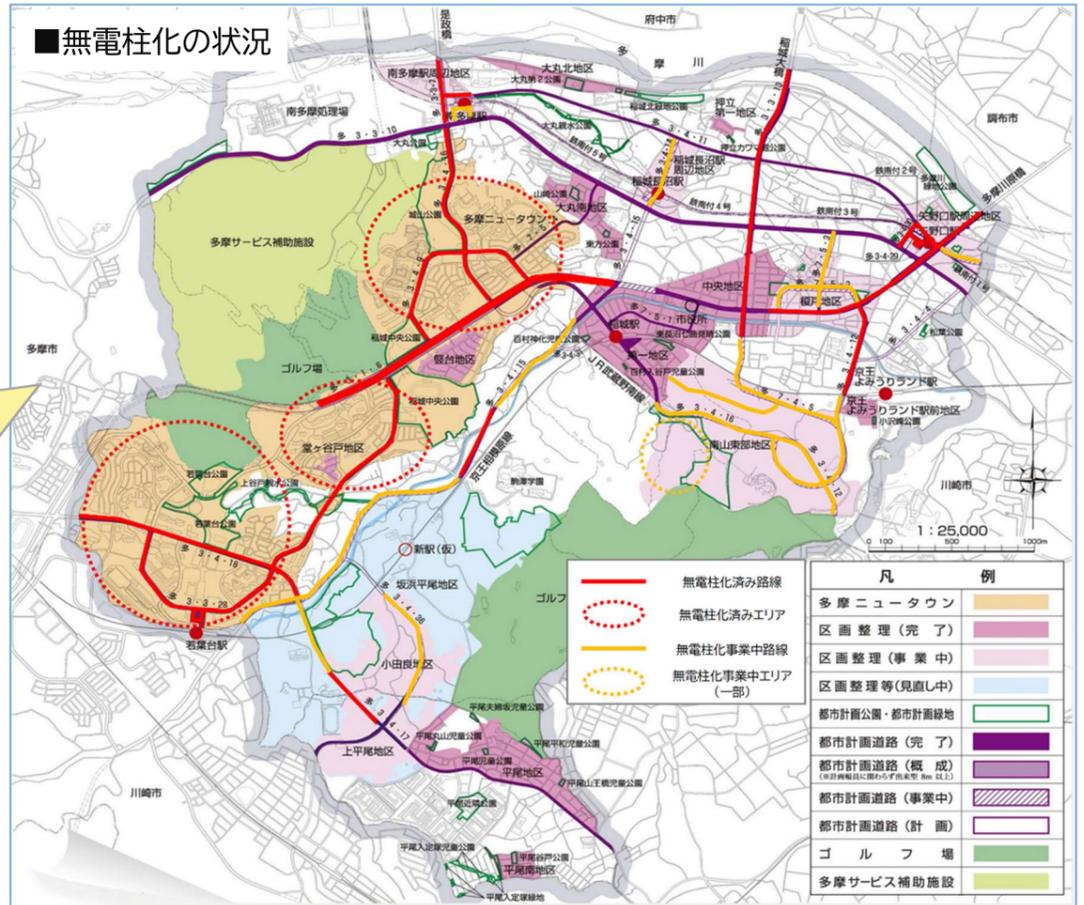
出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

約7割の方は、まちなみのゆとりや美観に満足。

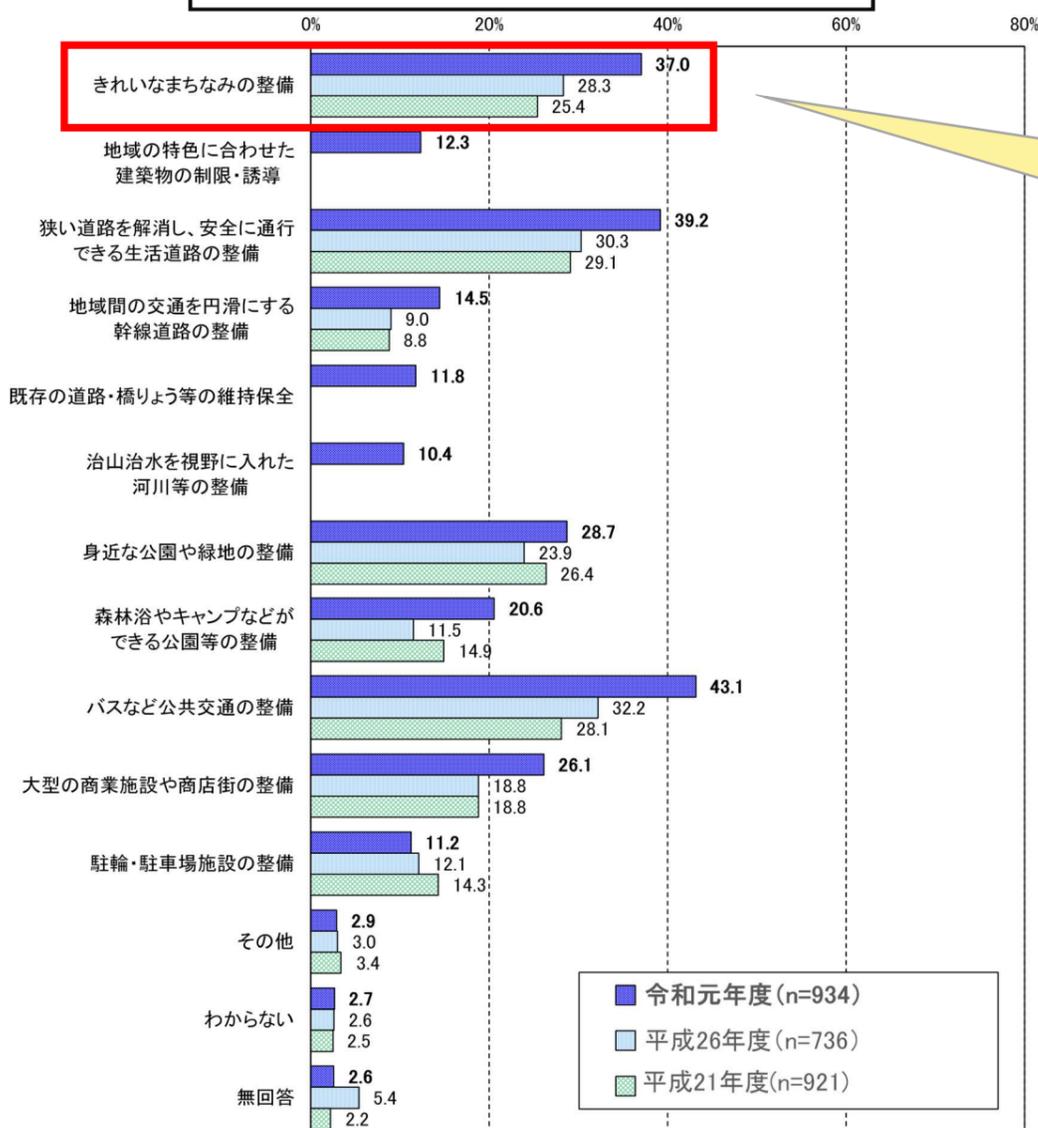
（参考：まちなみづくりの一例）

無電柱化の取り組み

- 本市の都市計画道路の整備と併せて電線共同溝による無電柱化を図っています。
- 多摩ニュータウンの地域では、生活道路でも無電柱化するなど、景観形成を図ってきています。



都市基盤について力を入れるべき施策



「きれいなまちなみの整備」は力を入れるべき施策の第3位と高くなっています。

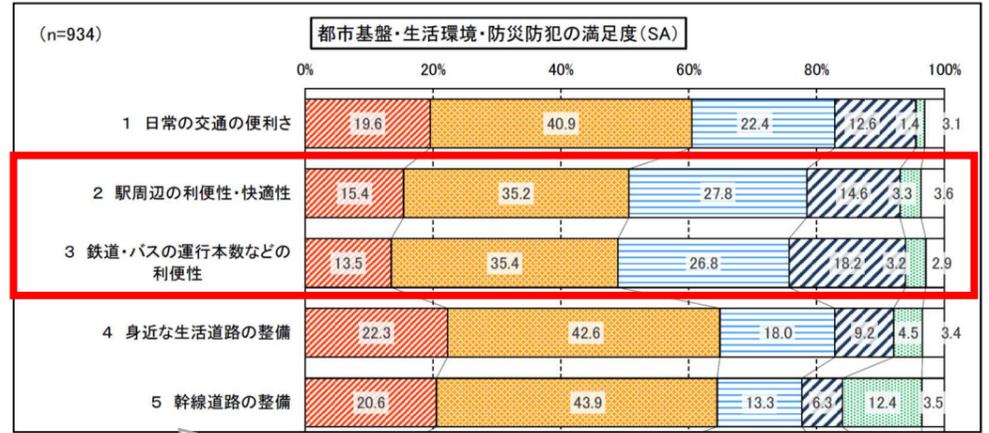
今後の方向性

- 地区の特性に応じて、景観色彩ガイドラインや地区計画の手法などを活用
- 緑化誘導や丘陵の緑を保全による、緑と調和したまちなみづくり

一体的な都市の形成と交通環境の改善

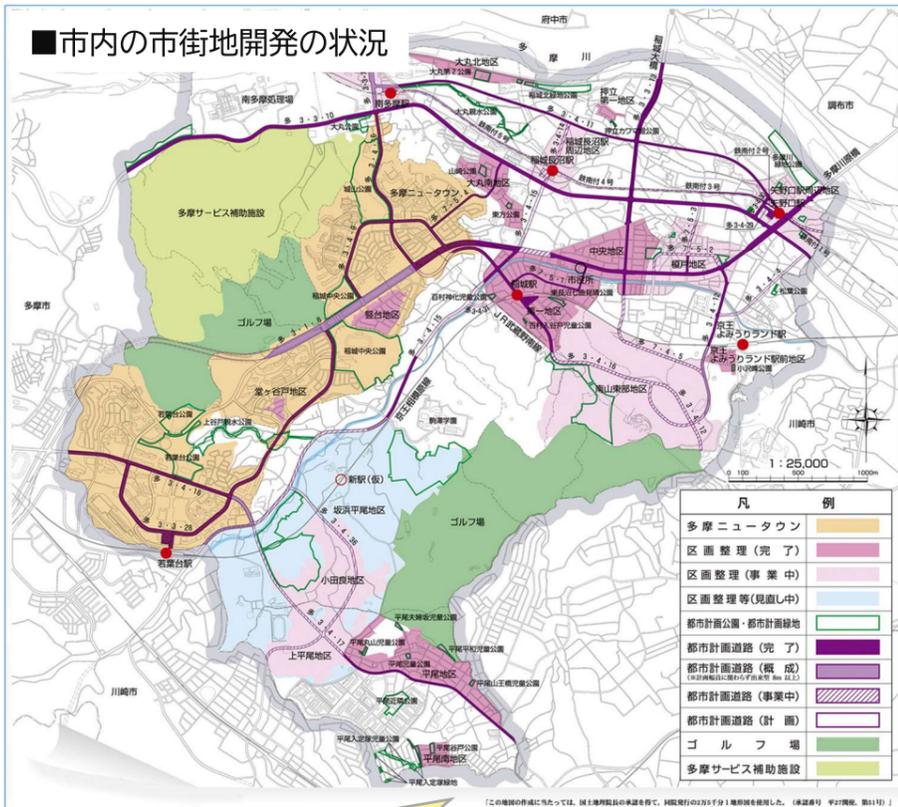
課題（市民意識調査）

「鉄道・バスの運行や駅周辺の
利便性に関して不満を感じている」

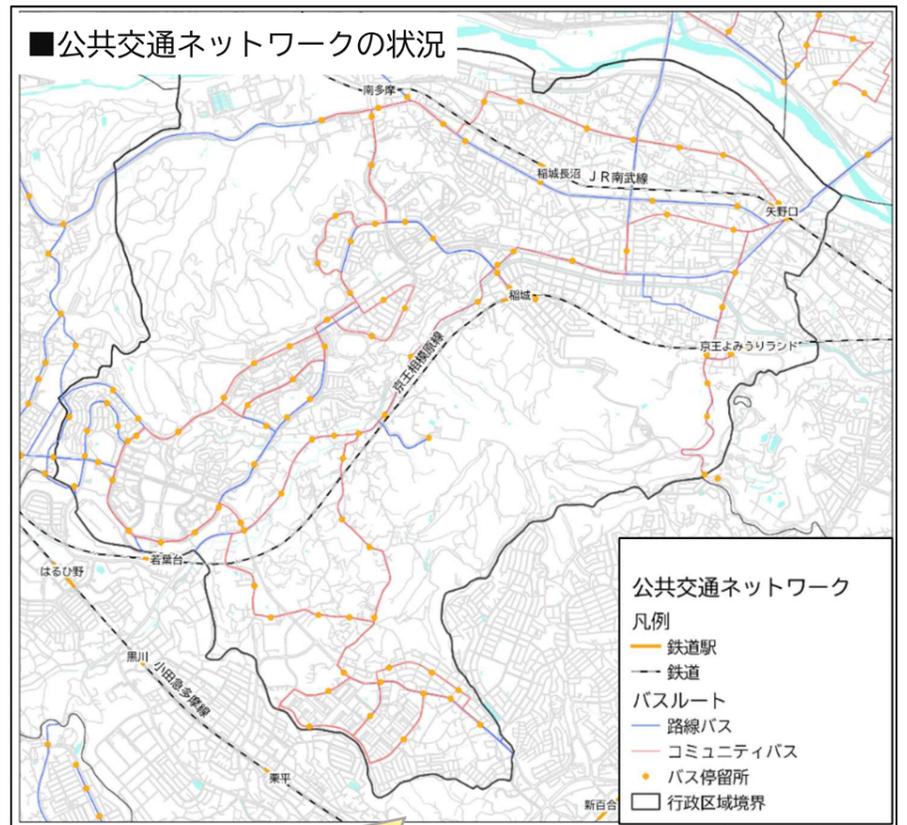
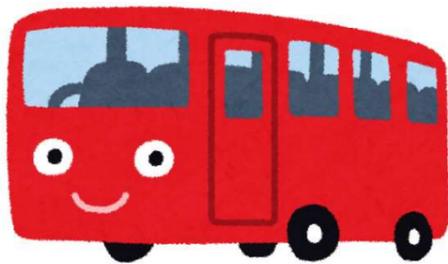


出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

「駅周辺の利便性・快適性」及び「鉄道・バスの運行本数などの利便性」の満足度は、ともに約5割と低くなっています。



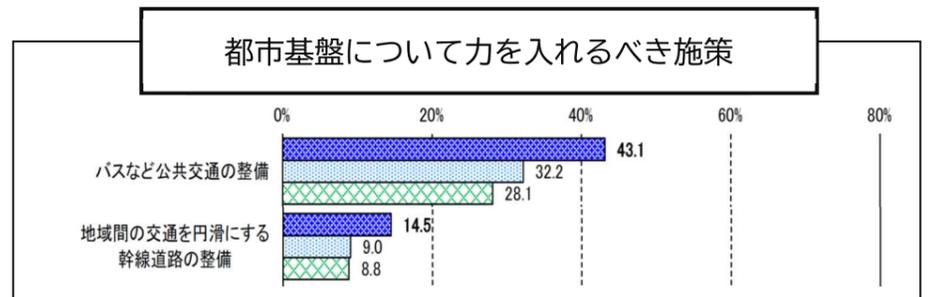
- 本市の中心地区となる稲城駅と稲城長沼駅を繋ぐ都市計画道路を含み、未着手の道路があります。
- 都市計画道路 30 路線のうち 16 路線が完成し、整備率は 72%。(令和3年3月末時点)



- ライフスタイルの変化により、自動車ネットワークの整備とともに、歩行者・自転車・公共交通により、各地域の拠点や施設等に行きやすくなるような交通環境をつくりあげる必要があります。

今後の方向性

- 都市基盤整備によるバス路線等の拡充
- 各地域の拠点や施設間の移動が容易にできる交通環境づくり



出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

「バスなどの公共交通の整備」は、力を入れるべき施策の第1位となっています。
一方、幹線道路の整備はあまり高くありません。

安全・安心に暮らせるまちづくり

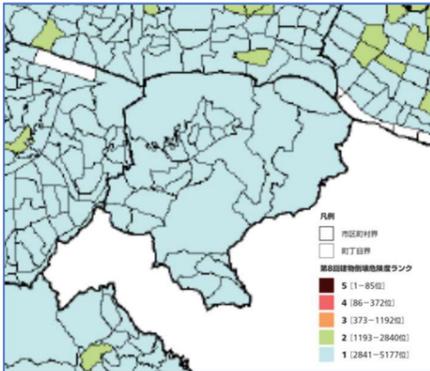
課題（市民意識調査）

「生活道路の改善や

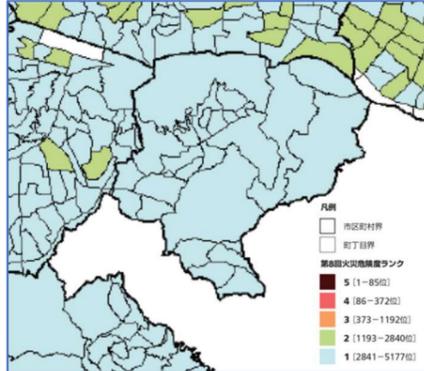
防災対策の意識向上」

■地震に関する地域危険度測定調査（第8回）（東京都）

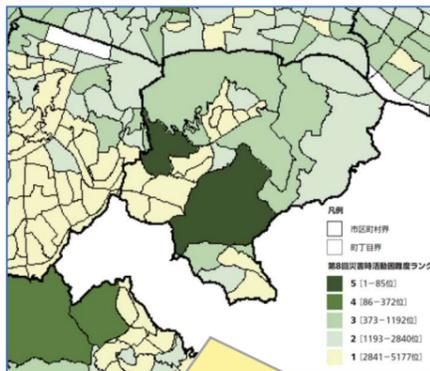
建物倒壊危険度



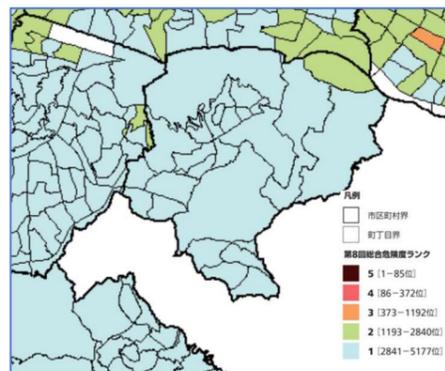
火災危険度



災害時活動困難度



総合危険度



○災害時活動困難度

坂浜：ランク5

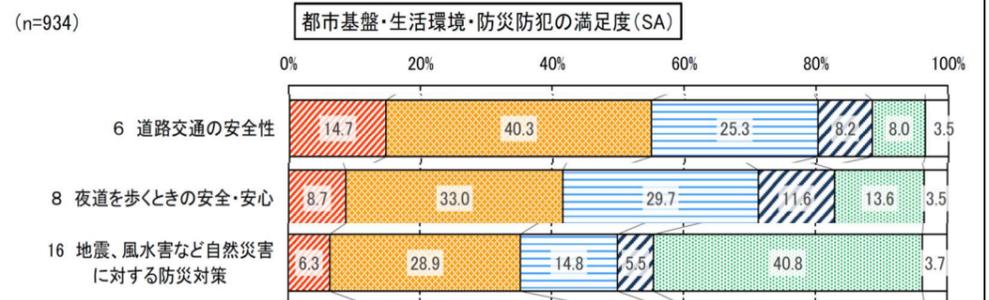
東長沼・大丸・百村：ランク3

⇒道路などの基盤整備・改善が不足

今後の方向性

○狭あい道路や生活道路の改善

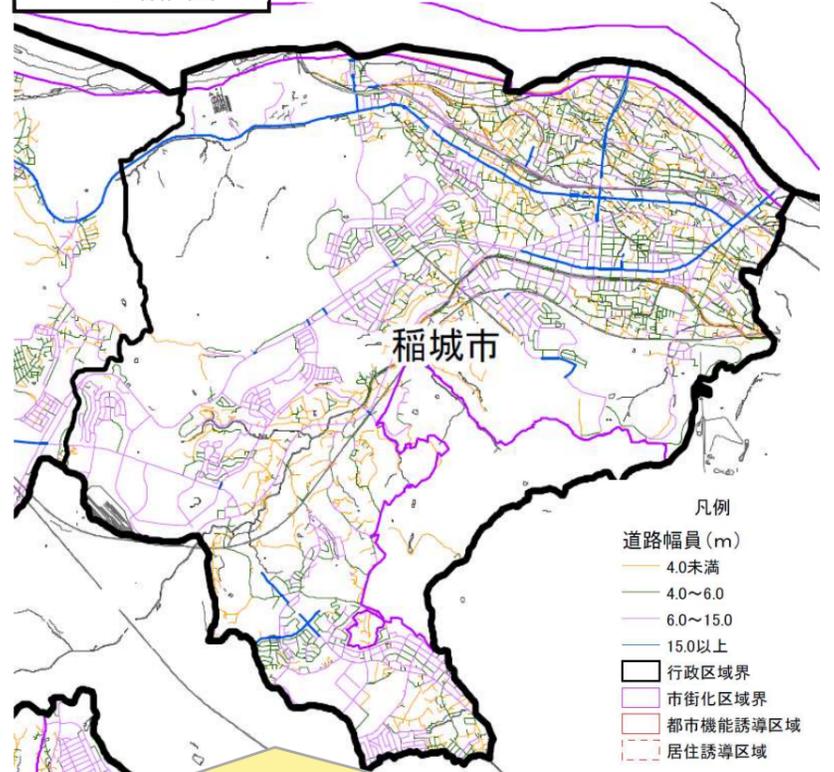
○自然災害に関する都市の防災性の向上



出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

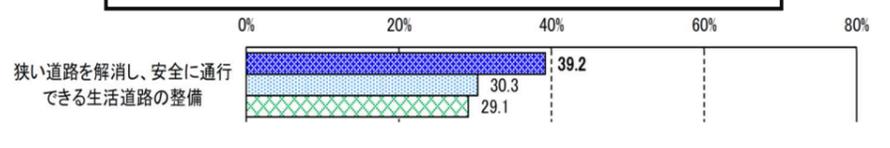
「道路交通の安全性」や「夜道を歩く時の安全・安心」の満足度が低くなっています。また、「防災対策」は“わからない”が多くなっています。

■道路網図

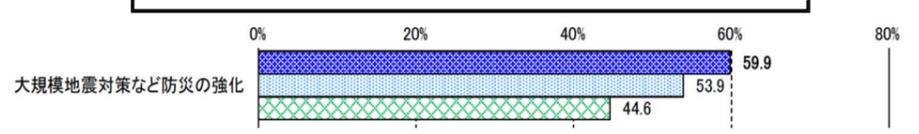


○既成市街地や坂浜地区など、4.0m未満の狭あい道路や行き止まり道路が多く、有機的なネットワークを構成するに至っていない状況です。

都市基盤について力を入れるべき施策



防災や防犯について力を入れるべき施策



出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

「生活道路の整備」は、都市基盤について力を入れるべき施策の第2位となっています。また、「防災の強化」は、防災や防犯について力を入れるべき施策第1位となっています。

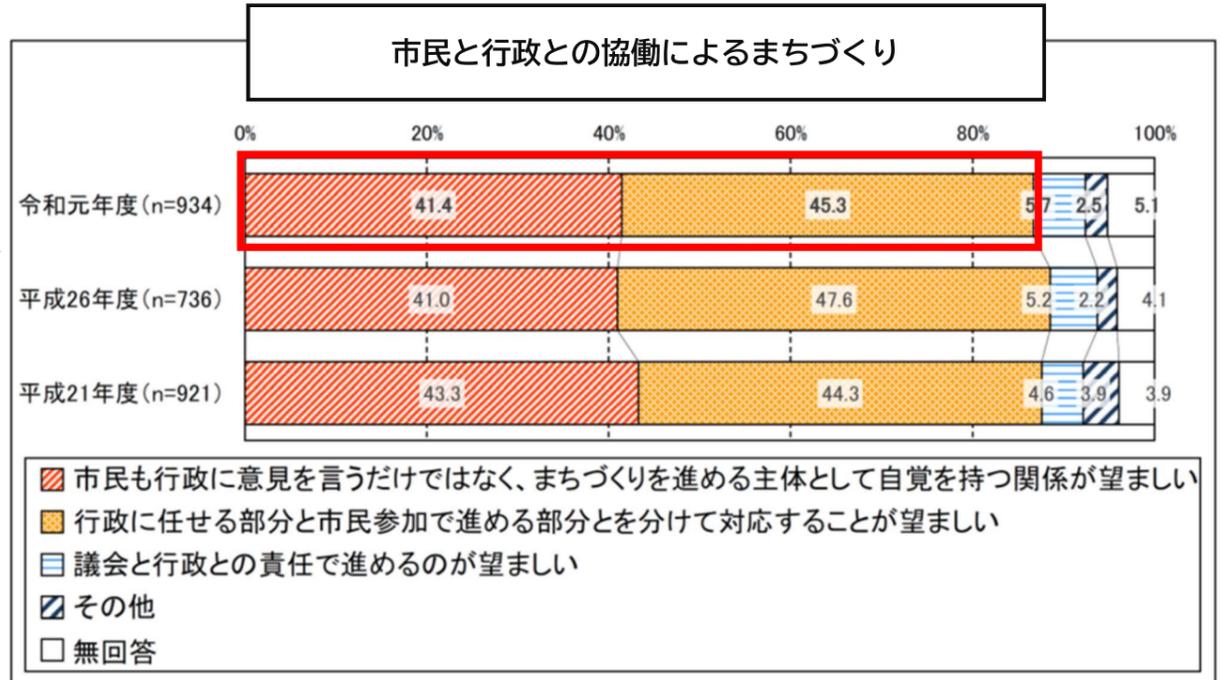
協働によるまちづくり

課題（市民意識調査）

「市民もまちづくりを進める主体として自覚を持つ、何かしらの形で市民参加をしていくことが望ましい」



市民参加が必要と考える割合は86.7%となっており、多くの方が何かしらの形で市民参加することが望ましいと考えています。



出典：令和元年度 稲城市市民意識調査

都市計画マスタープラン(現行)

- 今後のまちづくりは、これまでの行政主導のまちづくりから、行政のみならず、市民一人一人が、また、企業それぞれがまちづくりに参加していくことが必要です。
- どのように市民・企業・行政でまちづくりに取り組んでいくのか、そのルールづくりを進めます。



今後、協働のまちづくりを進めていくためには…

- 「シビックプライド」の醸成
- まちづくりに対する市民参加の機会の拡充、参加しやすい環境づくり
- ボランティア活動等、公民連携等のあり方の検討
- まちづくり条例の検討



まちづくりの将来像

本市は、暮らしやすい都会な部分と、豊かな水と緑があふれる生活環境とを兼ね備え、「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」というイメージを持った都市へと発展してきました。

上位計画の第五次稲城市長期総合計画の将来都市像である「緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城 みんなでつくる 笑顔と未来」を受けつつ、従来の目標像を継承し、本市のまちづくりの基本的な方向を次のように設定します。

都市計画マスタープラン まちづくりの将来像

水・緑に親しみ 人とふれあう生活都市 稲城

まちづくりの目標

1	水・緑・人がふれあい、 活力を創出するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の多様な活動・交流の場を大切にし、豊かな水・緑資源を介し、多くの人々がふれあうことのできる豊かなまちづくりを進めます。 ◆各拠点において、地域内外の様々な市民等がふれあい、まちの活力を創出し続けることができるまちを目指します。 ◆本市の恵まれた自然環境やよみうりランドなどの観光資源等を活かし、市内への誘客などによる賑わいのあるまちづくりを目指します。
2	環境負荷低減に向けた まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆水・緑資源をまちづくりに活かし、生活空間へと取り込んでいくとともに、地球環境への負荷低減に向けた低炭素型まちづくりや環境と共生するまちづくりを進めます。 ◆将来にわたり、里山等の自然と生活が近接した良好な環境の維持に努め、地域環境にやさしく、動植物にもやさしいまちを目指します。
3	安らぎと潤いに満ちた 生活が息づくまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆水・緑資源の豊かな住環境を維持するとともに、子どもから高齢者、障害者等、だれにも安全・安心で利便性が高く、暮らしやすいユニバーサルデザインに配慮した環境づくりを進めます。 ◆地域の状況にあわせたまちづくりに取り組み、地域ごとの特色や魅力を高め、わがまちへの愛着と誇りを持って生活できるまちを目指します。
4	安全・安心して暮らせる 災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆安全・安心して暮らすことができるように、狭あい道路の解消、生活道路の整備や緊急時の避難路の確保、さらに、無電柱化の実施や水害対策など、都市基盤整備による防災機能の充実を図るとともに、市民の生命や財産を守り、自然災害に強いまちづくりを目指します。
5	みんなで繋ぎ、受け継ぐ まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民参画のまちづくりを視野に入れ、地域住民が主体となって進めるまちづくりや大規模開発の適切な誘導などを行うために、まちづくり条例の制定などを検討する必要があります。 ◆市民の心のよりどころとなる水・緑、歴史・文化、コミュニティを、次世代の市民へと受け継いでいくことにより、成熟した活力ある魅力高い持続可能なまちづくりを目指します。

※なお、まちづくりの将来像やまちづくりの目標については、今後の策定に向けた検討のなかで、変更する場合があります。

【参考】第5次稲城市長期総合計画の将来都市

第5次稲城市長期総合計画の将来都市像

緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城 －みんなでつくる 笑顔と未来－

I 子育て・教育・文化
育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち 稲城

II 保健・医療・福祉
だれもが地域で健やかに暮らせるまち 稲城

III 環境・経済・観光
水と緑につつまれ 活力あふれる賑わいのまち 稲城

IV 都市基盤整備・消防・防犯
安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち 稲城

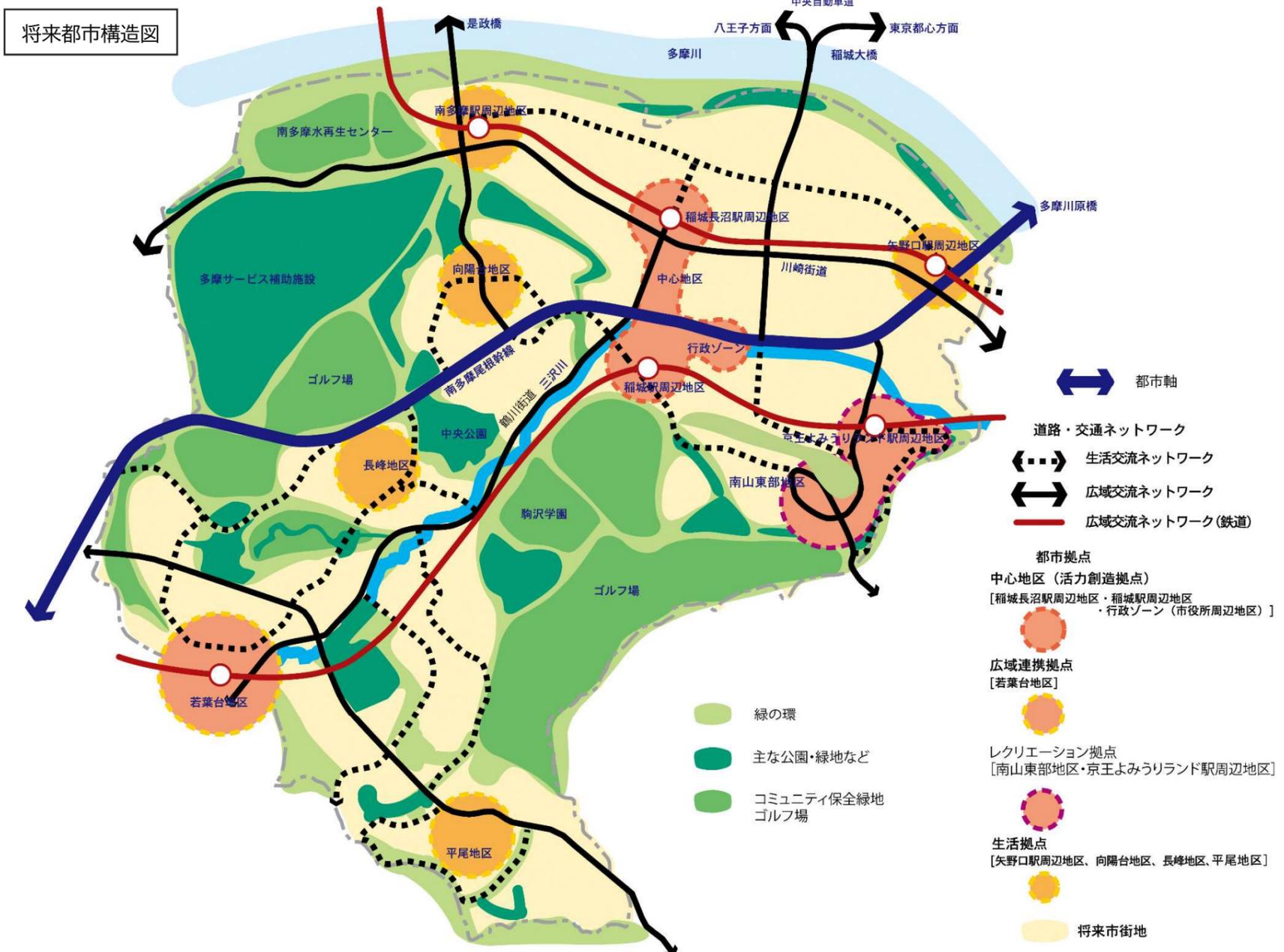
V 市民・行政
みんなでつくる 持続可能な市民のまち 稲城

将来都市構造

◇将来都市構造とは？

将来都市構造は、まちづくりの目標を実現させることで、将来のまちの姿としてイメージされるものです。

多摩川河川敷や多摩丘陵などの緑空間からなる市街地を包む緑の環、地域の日常生活やコミュニティ活動の場などになる各地域の拠点、これらを結ぶ交通ネットワーク構築による交通環境の整備など、さまざまな都市機能の配置について示します。



1 都市拠点

徒歩を基本とした身近な日常生活をサポートする拠点として、地域に密着した生活サービスやコミュニティ活動の場となるよう土地利用の誘導やまちづくり活動の促進を図ります。

- 中心地区(活力創造拠点)**
稲城長沼駅周辺地区・稲城駅周辺地区・行政ゾーンおよびこれらをつなぐ市街地(稲城の顔となる地区)
- 広域連携拠点(サブ拠点)**
若葉台地区
- レクリエーション拠点**
南山東部地区、京王よみうりランド駅周辺地区
- 生活拠点**
矢野口駅周辺地区、向陽台地区、長峰地区
- 生活拠点(平尾地区)**
老朽化した住棟の建替えによる安心安全な生活圏の構築

2 交通ネットワーク

本市は、基本的に住宅市街地からなり、市民生活における交通手段は鉄道やバスのほかに自動車利用が不可欠となっています。今後、高齢化の進行に伴い、徒歩を主体としたライフスタイルへ移行していくことが予測されることから、自立的な市民生活を地域内で支えていくことができる都市構造とします。

- 広域交流ネットワーク**
JR南武線・京王相模原線の鉄道、川崎街道や南多摩尾根幹線、鶴川街道、多摩川原橋、是政橋、稲城大橋から中央自動車道への接続、社会経済状況に応じた新たな交通ネットワークにより、本市や周辺都市との連絡を強化するネットワーク
- 生活交流ネットワーク**
生活道路や大丸用水の散策路などを軸とし、多様な交通手段が確保された各拠点とのネットワーク

3 緑の環の形成

多摩川河川敷や多摩サービス補助施設、南山から坂浜に広がる一定規模をもつ緑地は、市民交流ができるレクリエーション空間やコミュニティ活動の場として一部活用しつつ、稲城の骨格となる緑地として、また、新鮮で、すがすがしい風をつくり出す緑として、維持・管理・保全を目指します。さらに、多摩川沿いや多摩丘陵を活用した散策路づくりなどにより緑の環の緑空間を結びます。

- コミュニティ保全緑地**
妙見寺周辺や穴澤天神社周辺、多摩ニュータウン区域境等の斜面緑地を指し、市民参加等による維持・管理・保全を目指す緑地
- 三沢川**
稲城のシンボリックな河川であり、三沢川沿いから各地域の市街地や水・緑空間を結ぶネットワークとして形成